

親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要 及び関連諸行事を進めるにあたって

このたび、親鸞聖人御誕生 850 年・立教開宗 800 年慶讃法要の趣意書を起草するなか、宗門が慶讃法要の在り方及び関連諸行事を考え、企画するうえからの課題として、主要な点を次のとおり掲げました。

【大きな感動につながる法要を】

そもそも慶讃法要は、「法縁」によって同じ道を歩む人たちが繋がる喜びを再確認し、実感する場です。今回の慶讃法要は、特に若い人や、これまで仏教や浄土真宗の教えにあまり親しみのなかった方々へ、新鮮なメッセージをおくる絶好の機会にしなければなりません。そこにもまた、今回のような大きな法要を営む意義があります。従って、それに相応しい儀礼性を具えつつ、大きな感動を感じていただけるような法要の在り方を工夫することが大切です。

【伝わる伝道を】

眞実信心を正しく、わかりやすく、ありがたく伝えることが伝道の基本であり、儀礼や音楽の有効性を踏まえたうえで、伝道教団であるからにはやはり「言葉」は大切です。ご法義そのものは時代を超えるものですが、時代の状況や人びとの意識に応じた伝道の方法は工夫されるべきです。近年、指摘されているように「伝える伝道」から「伝わる伝道」へと本質的に転換していく必要があります。今回の慶讃法要を機に、宗門の内外に大切なメッセージを発信する文書でも、教理や教学の専門用語を、誰にでもわかりやすい言葉として紡ぎかえていく大胆な工夫をしていかなければなりません。

【『私たちのちかい』『浄土真宗のみ教え』の普及を】

今回の慶讃法要に向けて、浄土真宗のみ教えが正しく、わかりやすく、より多くの方々に伝わるよう、積極的に伝道していくことが大切です。

専如ご門主は 2016（平成 28）年、「伝灯奉告法要」の初日に、ご法義の基本的な頂き方として『念仏者の生き方』（ご親教）をお示しになりました。そして、2018（平成 30）年の「全国門徒総追悼法要（秋の法要）」で、特に若い人や、これまで仏教や浄土真宗の教えにあまり親しみのなかった方々に向け、『念仏者の生き方』の肝要を『私たちのちかい』（ご親教）としてご教示になりました。この『私たちのちかい』は、私たちが日々の生活のなかでどのように生きていくかを具体的にやさしい言葉で 4 カ条にまとめられたものです。さらに 2021（令和 3）年の「立教開宗記念法要（春の法要）」で、私たちが親鸞聖人の生き方に学び、次の世代の方々に浄土真宗のご法義がわかりやすく伝わるよう、現代的にその肝要を『浄土真宗のみ教え』（ご親教）として示されました。

み教えがより多くの方々へ伝わるようにとのご門主のお心を真摯に受けとめ、来る慶讃法要をお迎えするにあたり、『私たちのちかい』『浄土真宗のみ教え』があらゆる場面で、多くの人びとに唱和していただけるよう、その普及に努めていきましょう。

<2021（令和3）年7月改訂>

【社会に開かれた宗門へ】

これまでしばしば指摘されながらも、なかなか改善されてこなかった「開かれた宗門」への脱皮という課題があります。そもそも出家主義の仏教とは異なり、この世俗世界で仏道を歩むという念仏者の在り方は、「生きとし生けるものと共に生きていく」という大乘仏教の理想を実現していく道です。阿弥陀仏の教えに出遇えた私たちは他者の苦しみや悲しみに無関心ではられません。この他者への思いが基本にあってこそ、仏法に基づく仏教者の社会参画や社会貢献を実現し、公共性や公益性という社会的な要請にも応えうるのです。今回の慶讃法要をよき機縁として、より多くの人びとと心を開いて共に生かされて生きることの尊さと、喜びを伝えうる開かれた宗門へと脱皮していきましょう。

【具体的な社会実践として】

私たち宗門は長年、社会実践のひとつとして平和問題に取り組んできました。特に、戦後70年を機縁に平和に関する学びを深めるなかで、私たち誰もが取り組める平和への具体的な貢献策として、「貧困の克服」に向けた実践運動を展開しています。これは、「自他共に心豊かに生きることのできる社会の実現に貢献する」という宗門の基本理念と軌を一にするものであります。

さらに他の宗派に先駆けて、国際連合が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）にも注目してシンポジウムなどを開催してきました。SDGsの基本理念は「誰一人取り残さない」ということであり、「十方衆生を救うという阿弥陀仏の大悲の教え」と親和性があります。

これからも仏法に基づき、宗門内外の人びとと連携しつつ、SDGsをはじめとした社会の課題に取り組むことで、開かれた宗門を目指してまいりましょう。